

* テーマ *

福岡県の中世山城

福岡県内には 220 以上の中世城跡があります。本大会では、山野に残る土塁や堀の現地調査を続けてこられたお二人に、戦国時代の城郭と地域の姿について、最新の研究成果を踏まえて講演していただきます。

* 講演 *

◆ 「福岡県城郭研究の現状と課題」

中村 修身 氏 (北部九州中近世城郭研究会会長)

◆ 「福岡県の城郭と年代観

—近年の城郭研究を踏まえて—

中西 義昌 氏 (城郭談話会会員・別府大学非常勤講師)

※詳しくは裏面を御覧ください。

期 日 平成22年 6月26日(土) 13:00~16:30
(受付開始12:30)

会 場 福岡県立図書館 地下1階 レクチャールーム
(福岡市東区箱崎1-41-12 地下鉄箱崎宮前駅から徒歩3分)

定 員 160名(事前申込み不要)

参加費 無料

主 催 福岡県教育委員会
共 催 福岡県地方史研究連絡協議会(福史連)

* 講演内容紹介 *

【 福岡県城郭研究の現状と課題 】

中村 修身 氏 (北部九州中近世城郭研究会会長)

福岡県下の中世城郭の現地調査が活発に行われるようになって、二十数年がたちます。ここ十数年間は、城跡の分布図や縄張り図(城跡の地表面観察による測量図)の作成に多くの時間が費やされました。その成果の一部は、昨年秋に銀山書房より発刊された『福岡県の城郭』などに実を結んでいます。こうした研究成果をもとに、城郭が戦国史において果たした役割の具体例、守る城と攻める城との違い、城郭の規模の多様性が意味するものなどを検討します。

さらに、素晴らしい研究成果を収めるには、現地調査に加えて、古文書資料を活用することも大切な作業であることを述べたいと思います。

【 福岡県の城郭と年代観 —近年の城郭研究を踏まえて— 】

中西 義昌 氏 (城郭談話会会員・別府大学非常勤講師)

福岡県は考古学研究ではメッカですが、城跡遺跡については国庫補助の悉皆調査事業すら未だ実施されていません。『福岡県の城郭』はその欠を補う労作です。

今回の報告では、地道な調査成果をもとに、永禄期の毛利氏や大友氏より天正後期の有力国衆が積極的に城郭を普請したこと、豊臣軍との対決姿勢で秋月氏が巨大な城郭を築いたこと、九州国分後の織豊系城郭のことなどを紹介します。城郭遺跡から福岡県の戦国時代を読み解き、全国的な戦国・織豊期の城郭の年代観について考えます。

* 同時開催 *

◆ 6月26日

第5回地方史フェア (福史連主催)

福史連加盟団体のパネル展示と刊行物の販売を行います。(当日のみ)

◆ 6月1日(火)~6月30日(水)

ミニ展示「福史連加盟郷土史研究会の会報」

福岡県立図書館3階郷土資料室前にて会報の展示を行います。

お問合せ 福岡県立図書館 郷土資料課

福岡市東区箱崎1丁目41-12

TEL 092-641-1126 (直通)

FAX 092-641-1127 (代表)



公共交通機関を御利用の上御来館ください。